

第27回茅ヶ崎平和映画祭

2026年 8月26日(水) 茅ヶ崎市民文化会館小ホール

開始時間：①10:30 ②14:00

③19:00 開場各30分前

料金：一般1000円 ハンディ800円

高校生以下無料(当日各200円増)

主催：茅ヶ崎平和映画祭実行委員会

後援：茅ヶ崎市／(公財)茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

でき
ない
こと
には
なか
った

プレイバック：茅ヶ崎市民文化会館／
長谷川書店

茅ヶ崎駅北口・南口店

問合せ：桜井 090-4361-4719

山本 090-5408-4041

福田 0467-86-8038



黒川の女たち

監督 松原文枝 語り 大竹しのぶ

撮影：神谷潤 金森之雅 編集：東樹大介 プロデューサー：江口英明

製作：テレビ朝日 配給：太秦 2025|日本|99分|ドキュメンタリー (G) (R)

©太秦文化庁文化芸術振興費補助金(日本映画製作支援事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

kurokawa-onnatachi.jp

1945年 関東軍敗走の満洲で待ちうけた、黒川開拓団の壮絶な運命——

戦争と性暴力の事実、いま知るべきことがここに在る。



次に生まれるその時は、
平和の国に産まれたい

(「接待」を強いられた女性の詩)

高齢になった生存者の女性たちが、
その身に背負ったトラウマと
ステイグマから解放されるプロセスを、
このドキュメンタリーは描いた。
「黒川」はそれを象徴する名前となった。
「反省しない」日本は、黒川に学べるだろうか？

上野千鶴子

伝えなくてはいけない。
自分たちの孫やひ孫が幸せであり続けるために。
過去をきちんと知り、
未来を考えることをしなくてはいけないと思います。

大竹しのぶ

記憶が歴史になる前に、未来へ遺す。 戦禍を生きた人びとの証言。



80年前の戦時下、国策のもと実施された満蒙開拓により、中国はるか満洲の地に渡った開拓団。日本の敗戦が色濃くなる中、突如としてソ連軍が満洲に侵攻した。守ってくれるはずの関東軍の姿もなく満蒙開拓団は過酷な状況に追い込まれ、集団自決を選択した開拓団もあれば、逃げ続けた末に息絶えた人も多かった。そんな中、岐阜県から渡った黒川開拓団の人々は生きて日本に帰るために、敵であるソ連軍に助けを求めた。しかしその見返りは、数えて18歳以上の女性たちによる接待だった。接待の意味すらわからないまま、女性たちは性の相手として差し出されたのだ。帰国後、女性たちを待っていたのは労いではなく、差別と偏見の目。口さがない誹謗中傷。同情から口を塞ぐ村の人々。込み上げる怒りと恐怖を抑え、身をひそめる女性たち。青春の時を過ごすはずだった行先は、多くの犠牲を出し今どこにも存在しない国。身も心も傷を負った女性たちの声はかき消され、この事実は長年伏せられてきた。だが、黒川の女性たちは手を携えた。したこと、されたこと、みてきたこと。幾重にも重なる加害の事実と、犠牲の史実を封印させないために――。



●茅ヶ崎平和映画祭は、「子どもたちに平和で、安全な未来を手渡したい」「平和についてたくさんの人達と語り合いたい」という願いを込めて、1999年から夏に平和の映画を上映しています。